



もつと元気な、
もつと豊かな、
もつと住みやすい
未来へ大きく羽ばたくまち!!
かのや“の実現に向けて”

2025

新春のごあいさつ

新年あけましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては、希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、平素より市政運営にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、まちなぎわいが本格的に回復し、25回目を迎えた「エアーメモリアルのかのや」においては、10年ぶりとなるブルーインパルスブルーインパルスの華麗な航空ショーが披露されるなど約4万2千人の観客で賑わいました。

中心市街地においては、リナシティリナシティかのやの1階にコワーキングスペースを核とした「RINA BASE+」RINA BASE+を開設し、11月には大隅半島初となる「イオンかのやショッピングセンター」がオープンするなど、まちなかに新たな賑わいが生まれました。

スポーツによってまちが沸いた年でもありました。7月に開催されたパリオリンピック2024では、鹿屋体育大学の卒業生である杉野正亮選手杉野正亮が体操競技男子団体で金メダル獲得に貢献したほか、本市ゆかりの選手が世界の舞台で活躍してくれました。また、本市の女

各地に大きな被害を与えました。日頃の備えや減災対策の必要性を改めて感じた一年でした。本年も地域とともに防災・減災の取り組みを進めると同時に、脱炭素社会の実現に向けて「ゼロカーボンシティかのや」を推進してまいります。

さて、本市は現在、令和7年度からの10年間に於けるまちづくりの将来像を定め、市政の総合的な経営指針となる「第3次鹿屋市総合計画」の策定を進めております。現行の第2次計画策定当時に比べて、人口減少が更に進行し、あらゆる分野において担い手不足が大きな課題となっております。加えて、DXの推進や在留外国人の増加、広域連携の必要性の更なる高まりなど、新たな視点を盛り込んだ施策を進めていく必要があります。

2023年に策定した人口減少対策ビジョンに掲げる「2060年に9万人程度の人口を維持する」という将来目標の実現に向け、これからの10年間に於いて市民と行政が協働しながらまちづくりを進めていくための指針となる計画にしていきたいと考えております。

また、今年には戦後80年を迎えるとともに、令和8年1月1日に市制施行20周年を迎える節目の年と

子プロソフトボールチームMORI ALL WAVE KANOYAは悲願のリーグ優勝を成し遂げ、鹿屋農業高等学校野球部は私立の強豪校に挑み、県制覇まであと1勝と迫る活躍を見せてくれるなど、どちらのチームも市民に感動を与えてくださいました。

本市の歴史をはじめ、文化や自然、時事問題など様々な分野を総合的に学ぶきっかけづくりとして「かのやふるさと検定」を初めて実施しました。シティブロモーションの取り組みについては、本市の「土用の『うしろの日』問題」の新聞広告が第44回新聞広告賞の大賞を受賞したほか、首都圏を走る東急田園都市線の1編成を全て貸し切り、本市のばら大使であるサンシャイン池崎氏サンシャイン池崎氏が手掛けるポスターの掲示や動画の放映を行う「走る個展」を開催しました。本年も引き続き、市民の皆様とともに誇りや愛着を持てるまちづくりに取り組み、本市の魅力を広く発信してまいります。

昨年は記録的な猛暑日が続くなど、地球温暖化の影響を実感することとなりました。また、令和6年能登半島地震や宮崎県日向灘を震源とする地震をはじめ、台風10号などの自然災害が発生し、日本

なります。先人たちの築いた歴史を振り返り、次世代に引き継いでいくとともに、鹿屋市と市民の皆様が新たなスタートを切る契機となる年になりたいと思います。市内ではこの一年、様々な記念行事やイベントも展開されますので、皆様もぜひご参加ください。

今年の干支「乙巳きのとみ」は、一説によると、「努力を重ね、物事を安定させていく」との意味を表し、これまでの努力や準備が実を結び始める年と言われています。市民の皆様一人ひとりのこれまでの御努力が大きな成果につながるよう、市としても共に取り組んでまいりますので、ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

結びに、本年が皆様にとりまして、明るく希望と幸せに満ちた良い一年になりますよう心から祈念申し上げます。新春のあいさつといたします。



鹿屋市長 中西 茂